

# ①観光コンテンツ ワークショップ

---



# 目次

|                                                 |          |
|-------------------------------------------------|----------|
| <b>1.概要</b>                                     | <b>3</b> |
| <b>2.ワークショップ・勉強会</b>                            | <b>4</b> |
| 1. ささしまの歴史／中川運河の動き・名駅周辺の開発について                  | 4        |
| 2. デジタルコンテンツワークショップ                             | 6        |
| 3. ささしまライブエリアの活性化策の検討ワークショップ                    | 7        |
| 4. 先進地ワークショップ（竹芝）                               | 8        |
| 5. ロケーションデータの活用検討ワークショップ                        | 9        |
| 6. まち歩きワークショップ                                  | 10       |
| 7. 中間報告                                         | 11       |
| 8. ささしまライブエリアでのイベント実施状況の分析と今後の活用策についての検討ワークショップ | 12       |
| 9. 全体中間報告ワークショップ                                | 13       |
| 10. ささしまライブエリアの人流分析データの検討ワークショップ                | 14       |
| 11. 先進地とのワークショップ（うめきた）                          | 15       |
| 12. ささしまライブエリアの活性化事業の進捗確認と今後の方向性                | 16       |

## 1. 概要

### ワークショップの目的

- ・名古屋駅～ささしまライブ～中川運河エリアを「有機的につなぐ」アイデアを生み出す
- ・交通手段を単なる移動手段ではなく、「物語の一部」として体験価値を高める

## 1. 導入

- ・背景説明：「なぜこのエリアをつなぐことが重要なのか？」（都市計画、観光、歴史的背景など）
- ・交通×物語の事例紹介（他都市の成功事例や、名古屋の歴史を活かしたコンテンツ例など）
- ・ワークショップの目的説明

## 2. アイデア発想

- ・グループ分け（異なる視点を持つ人を混ぜる）
- ・マインドマップ作成：「このエリアの魅力」「どんなストーリーが生まれそうか」
- ・ペルソナ設定：「どんな人が移動し、どんな体験を求めるのか？」
- ・移動手段と物語の組み合わせを考える（徒歩・自転車・バス・船・新たなモビリティなど）

## 3. コンセプト作り

- ・ストーリーの骨組みを作る（登場人物、移動手段、目的、感動ポイントなど）
- ・簡単なストーリーボードを描く（絵や短い文章で物語を視覚化）
- ・発表&フィードバック

## 4. まとめ・次のステップ

- ・各グループの発表とディスカッション
- ・今後の展開を話し合う（ささしまならではのイベント・デジタルコンテンツ）
- ・記録・発信方法の検討（Web サイト、SNS、動画制作など）

## 2. ワークショップ・勉強会

### 内容

#### 1. ささしまの歴史／中川運河の動き・名駅周辺の開発について

日時 : 2024 年 9 月 24 日 (火) 15:30 名古屋コンベンションホール 210

講師 : 井澤知旦

参加者 : 各施設代表者、オンライン参加者を含む 19 名

講演内容 :

1886 年 笹島停車場が開設された。このとき南西は平野の集落がある農村地帯であった。その後、東海道線、関西線が全線開通し、笹島地区には水陸連絡設備と積卸場が整備された。

1937 年 駅舎が北に移転し新名古屋駅が開設され、笹島は貨物駅として利用されることになった。

1986 年 物流の変化、水運や鉄道輸送から陸運に変わってきたことで貨物駅が廃止となり、利用転換が進んでいく。

2005 年 あおなみ線が開業、ささしまは愛・地球博のサテライト会場として使用された。

2017 年 ささしまライブ 24 地区としてまち開きとなる。

現在地区内には、ホテル、シネコン・アミューズメント、ライブホール、国際交流施設、大学、放送局、賃貸住宅があり、中川運河堀止付近は 2026 年 4 月オープン予定で、ホテル、レストラン、屋台、イベントスペース、水上アクティビティ、遊歩道などが整備される。

今後の展開 :

- ・鉄道と水辺に囲まれ、境界が明確なエリアであり、エリアのアイデンティティやシンボリック性の強化を打ち出していく。
- ・周辺地域とつながることで、各箇所の連携においても要の地域となる。
- ・物流結節点（モノ）から国際・交流拠点（ヒト）へ転換していく。
- ・多業種施設による複合的な機能が発揮される。
- ・建物は建てた時が価値のピークであるが、そのあとはヒトによって価値を高めていく。
- ・今あるストック（既存の蓄積）を有効活用する。ストックシェアリング。
- ・エリア内の公共空間（道路、公園、水辺）、民間企業・機関・大学・放送局（空間）、人材のシェアリングを進める。

→これらが機能する上で、マネジメントが重要となる。



＜ワークショップの内容について＞

今後開催されるワークショップについての説明と、プログラムについて話し合った。

- ・ **プログラム概要の説明：**

ワークショップ全体の目的、各回のテーマ、進行方法などについて共有した。

- ・ **参加者の自己紹介とネットワーキング：**

プログラムを通しての交通人材育成について。

- ・ **交通分野の現状と課題の共有：**

現在のさっしまライブの状況や直面している課題について情報を共有した。

- ・ **期待される成果と目標設定：**

ワークショップを通じて達成したい目標や期待される成果について話し合い、各自の学習目標を設定した。

## 2. デジタルコンテンツワークショップ

日時 : 2024 年 10 月 17 日 (火) 15 時 JICA

講師 : 中野公雄

参加者 : 各施設代表者、オンライン参加者を含む 17 名

議題 : ささしまライブエリアの活性化策の検討、特に謎解きゲームを活用し  
地域活性化プランの提案と実施計画について

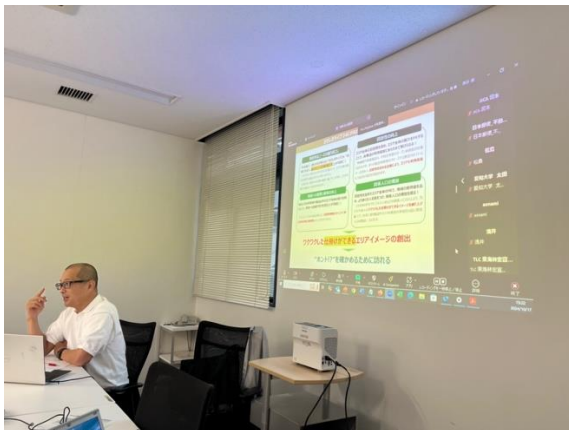
目的 : ささしまライブエリアの現状分析と、地域活性化に向けた具体的な施策の検討、  
特に謎解きゲームを活用した新しい取り組みの企画立案

内容 :

地域の現状分析として、商業施設や大学、JICA などの施設が点在しているものの、それぞれが独立して機能しており、施設間の連携が不足している。名古屋駅に近い立地であるにもかかわらず、人通りが少なく、特に夜間や休日の賑わいが不足している。これらの課題に対する解決策として、謎解きゲームで各施設を巡るルートの設定や、QR コードや AR を活用した仕掛けを設置するなどの地域活性化を提案。情報発信の方法として、SNS の活用や、地域内の各施設との連携による PR 活動なども効果的である。

今後について :

- ・ 11 月 14 日 14 時 30 分より、謎解きゲームの現地視察とワークショップを実施。視察時間は約 70 分程度を予定し、スマートフォンのみを持参。実際の現場で具体的なアイデアを検討。
- ・ 謎解きゲームの基本コンセプトとして、未来志向の要素を取り入れる。ささしまライブの特性を活かし、より魅力的なコンテンツを作り出すための方向性であると考え。
- ・ 情報発信の方法として、体験に基づいた情報発信を重視する。これは、単なるイベント告知ではなく、実際の体験を通じた共感を得ることが重要。



### 3. ささしまライブエリアの活性化策の検討

日時 : 2024 年 11 月 12 日 (火) 10 時 ささしまライブ総合管理事務所

参加者 : 各施設代表者、オンライン参加者を含む 13 名

議題 : ささしまライブエリアの活性化策の検討、人流データの分析、イベント実施計画、周辺地域との連携方策

目的 : ささしまライブエリアの現状分析と活性化に向けた具体的な施策の検討、大須からの観光客誘致や名古屋駅との連携強化について考える

内容 :

ささしまライブエリアの位置づけについて、名古屋駅との関係性が重要であり、現状では名古屋駅からの人の流れが十分でない。

大須地区からの観光客誘致については、心理的な距離感を縮める必要性がある。また、松原地区の歴史的な建築物や街並みを活かした街歩きルートの可能性も考えていく。

データ分析については、現状把握と将来展望の両面から検討し、人流データの分析と活用方法について詳しい議論をした。さらに、中間発表に向けた準備や、現地調査の実施計画についても具体的な検討をした。

今後について :

- ・ 中間発表では藤塚氏が発表を担当。まちづくりビジョンについては「案」という形で行政との調整を踏まえながら作成していく。

- ・ 参加者には事前に宿題として、ささしまライブエリアの将来像について考えを整理しておく。

#### 4. 先進地ワークショップ（竹芝）

日時：2024年11月20日（水）14時 竹芝

参加者：ささしままちづくり協議会、竹芝地区まちづくり協議会 16名

実施内容：

●「竹芝の公共交通の現状と今後の可能性」（都の都市計画担当者）

竹芝周辺の交通課題、将来の計画について

「最新スマートモビリティのトレンド」（専門家・研究者）

MaaS、自動運転バス、シェアモビリティなどの事例

●課題とアイデア出し

[グループワーク]

テーマ：「もっと便利に、もっと快適に！竹芝の移動をアップデート」

竹芝エリアの移動に関する困りごとを整理

解決策として使えるようなスマートモビリティのアイデアを発想

「3年後の竹芝の理想の移動」をビジュアル化

●プレゼン & ディスカッション

ささしま地区に置き換えた場合について議論

各グループからアイデア発表

専門家・行政担当者からのフィードバック 参加者間での意見交換



## 5. ロケーションデータの活用検討ワークショップ

日時 : 2024 年 11 月 26 日 (火) 15 時 ささしまライブ総合管理事務所

参加者 : 各施設代表者、オンライン参加者を含む 18 名

内容 :

ロケーションアナライザーのデータ活用について、まちづくり協議会での利用可能性を検討。データの取り扱いに関する守秘義務や契約上の制約について確認が必要。

大和ハウスの武田氏から、グローバルゲートにおける約 2,000 名の従業員のうち多くが業務用車両を使用している現状により、建物内に 4 基のタワーパーキング（各 30-32 台収容）と平面駐車場を設置していること、さらに中川運河近くにも専用駐車場を確保していることがわかった。

過去に作成したプロモーション計画を振り返り、ささしまライブエリアの独自性やユニークユーザーの獲得戦略を話し合った。

実施内容 :

### ● ロケーションデータの活用事例紹介

データ提供企業によるデモンストレーション

スマートシティにおけるデータ活用の最新動向

### ● 発表

チームごとに課題設定・ブレインストーミング

アイデア整理・プロトタイピング

発表準備

各チーム 5 分プレゼン

## 6. まち歩きワークショップ

日時：2024年12月10日（火）15時 松原地区

参加者：ささしままちづくり協議会、松原地区関係者 11名

議題：ささしま地区と松原地区との連携と人流

内容：

人の流れとして予想できるルートを実際に歩きながら考察し、メンバーでルートマップを制作した



## 7. 中間報告

日時：2024年12月12日（木）15時 名古屋コンベンションホール 303

参加者：各施設代表者、オンライン参加者を含む14名

議題：デジタルコンテンツの制作、2月15日開催予定のシンポジウム/冬季イベント、データ分析と調査計画について

内容：

- ・デジタルコンテンツについては、謎解きゲームを活用した地域活性化プランが提案され、ミッドランドスクエアからささしまライブまでのストーリー性のある展開を計画。専門家の中野氏を中心に、地域の特性を活かしたコンテンツ作りが進められている。
- ・2月15日開催予定のシンポジウムについては、日本政策投資銀行の田中広輔氏を招聘し、地域の将来像について議論する予定。会場は中京テレビプラザCを使用し、オンラインでの配信も予定。
- ・シンポジウムと同日開催の冬季イベントについては、寒さと強風という課題に対して、人工雪を活用したイベントを検討していく。準備は事務局が担当する。
- ・データ分析について、ロケーションアナライザーを活用した人流調査や、大津地区との連携可能性について検討した。
- ・「ささしまライブ24」という表記について、「24」を外す方向での統一が提案された。

今後について

- ・デジタルコンテンツは中野氏を中心に進め、1月中に制作状況の共有会を実施、2月には実際に体験する計画とする。



## 8. ささしまライブエリアでのイベント実施状況の分析と今後の活用策についての検討ワークショップ

日時：2024年12月17日（火）9時 ささしまライブ総合管理事務所

参加者：各施設代表者、オンライン参加者を含む11名

議題：ささしまライブエリアで実施されたイベントのデータ収集・分析を行い、地域活性化に向けた効果的な施策を検討

内容：

イベントデータの収集範囲は、コロナ禍の影響を考慮して過去2年程度のデータを対象とする。

データの分析対象として、グローバルゲートでのイベント、愛知大学での資格試験、公園でのイベントという3つの主要カテゴリーを設定。

24時間テレビのような大規模イベントの影響や、平日・休日の来場者数の傾向が、予想に反して平日と休日の来場者数に大きな差が見られないという興味深い結果となった。

また、地域住民の参加状況や広域からの集客効果についても分析の必要性があると話題に上がり、SNSでの影響度測定や、イベント実施時の売上データとの相関分析なども提案された。

内容

### ● データ分析ハンズオン

実際のイベントデータを用いた分析手法の紹介

使用ツール：Excel、Python、R など

### ● グループワーク（13:30～15:30）

テーマ：データに基づく地域活性化施策の提案

チーム編成：異なるバックグラウンドの参加者で構成

進行：ファシリテーターがサポート

### ● 発表とフィードバック

各チームの提案発表（1チーム10分）

専門家・参加者からのフィードバック

- ・イベントリストの作成と共有をする（担当者が既存のリストを確認・整理）

## 9. 全体中間報告

日時：2024年12月17日（火）15時 ささしまライブ総合管理事務所

参加者：各施設代表者、オンライン参加者を含む13名

議題：全体での状況確認

内容：

- ・イベントデータの分析：

コロナの影響を考慮し、直近のデータが重要と判断。期間を2-3年に設定。過去のイベントリストの整理と分析を開始。

- ・データ収集：

公園管理者から、公園と広場でのイベント実施履歴のリストを入手。データの収集範囲が限定的（公園と広場のみ）であることが心配される。グローバルゲートでのイベント情報を収集していく。SCマネジメントからの売上データの収集を検討していく。

- ・イベントの効果測定や地域への影響分析を重点的に行う。

・増加する資料の効率的な管理のためデータストレージの整備をし、共有システムの構築をする

- ・報告書作成について：来年度も継続的な調査の可能性を検討した



## 10. ささしまライブエリアの人流分析データの検討ワークショップ

日時：2024年12月27日（金）15時 JICA

参加者：各施設代表者、オンライン参加者を含む13名

議題：ロケーションアナライザーやソフトバンクのデータを活用した人流分析結果の共有と、今後のOD調査実施に向けた計画の検討

内容：

- ・イベントデータの分析ロケーションアナライザーを使用した各種イベントの人流データ分析結果の報告として、令和5年度から6年度にかけて実施された各種イベントの参加者データを提示。

名古屋ガールズフェスティバルやマーケットフェスなどのイベント時のデータについて、主催者発表の参加者数と実測データの間に大きな乖離があることが指摘され、データの信頼性について議論が行われた。

マーケットフェス2024については、約1万6000人の来場者データが報告されたが、KDDIユーザーのみのデータであることから、実際の来場者数の推計方法について検討が必要。データの解釈に関して、ホテルやコンベンションホール利用者のデータが含まれている可能性があり、純粋な来場者数の把握が困難であるという問題が提起された。

大須エリアとささしまライブ間の人流分析については、ソフトバンクが開発した全国見える化マップを活用し、より詳細なOD（起点-終点）調査を実施する提案があり、人の流れや、滞在時間、経路地点などの詳細なトリップチェーン分析を行うことを計画する。

調査の具体的な内容として、直接トリップ数（直接の移動）と間接トリップ数（経由地がある移動）の両方を分析対象とする。この分析には約100万円程度の費用が見込まれる。今後の展開として、ループやグリーンスローモビリティなど、協議会レベルで実施可能な交通手段の実験が提案された。

今後の調査方針として、現状では通勤通学者の動きは把握できているものの、その他の目的での移動については十分なデータがないという課題認識に基づき、通勤通学以外の人流パターンの分析に重点を置くことが決められた。

## 11. 先進地とのワークショップ（うめきた）

日時：2025年1月29日（水）午後 大阪

参加者：ささしままちづくり協議会、梅田地区エリアマネジメント実践連絡会 16名

議題：うめきたエリアの現状と今後の交通まちづくりのポイント

内容：

### 1. イントロダクション

うめきた第二期開発の説明を受ける  
うめきたの交通まちづくりの現状説明  
今後の方向性や課題の提示

### 2. グループワーク

テーマごとに4つのグループに分かれる（歩行者・MaaS・公共交通・スマートモビリティ）

それぞれのグループで「課題」と「解決策」を話し合った  
「MaaS」グループなら「うめきたでどんなサービスが必要か？」

### 3. 発表&まとめ

各グループからの発表（5分×4グループ）  
まとめ&今後の展開についてディスカッション



## 12. ささしまライブエリアの活性化事業の進捗確認と今後の方向性

日時：2025年2月5日（水）15時 JICA

講師：井澤知旦

参加者：各施設代表者、オンライン参加者を含む12名

議題：1. 観光コンテンツワークショップの実施報告、2. デジタルコンテンツ（謎解きゲーム）の企画状況、3. 地域共創シンポジウムの準備状況、4. 各種調査報告

内容：

- ・バスとの連携や地域活性化への効果について話し合い、バスにチラシをおいてもらうことを進める。あおなみ線にもポスターを貼り、イベントに効果があるかを検証する。
- ・デジタルコンテンツとして企画している謎解きゲームについて、ストーリーの概要や実施方法について共有。謎解きは「ささしま水霊（タルクス）と祠の呪い」というテーマで、地域の特徴を活かした内容となり、2月21日の謎解きゲームのテスト実施を行う。
- ・地域共創シンポジウムについては、藻谷氏の講演内容や参加者の募集状況を共有。
- ・各種調査については、人流データの分析結果や今後のまちづくりビジョンの入り口を作っていくこととなった。
- ・補助金の使用方法については、明確な説明責任を果たしていく。
- ・補助金期間終了後も、作成したコンテンツを活用した地域活性化の取り組みを継続していく。

